

東京都が新たな観光産業振興プラン

●観光都市、東京を目指して

東京を訪れる外国人旅行者の数が急増し、都内の経済活動に大きな影響を及ぼすなか、観光分野は東京の持続的な成長と発展において重要な役割を担っています。

そこで、都は、観光を巡る状況の変化に速やかに対応しながら、観光産業振興を戦略的かつ総合的に展開するため、「PRIME 観光都市・東京～東京都観光産業振興実行プラン2017～」を策定しました。今回は、その特徴や施策についてみていきます。

●5つの取組の視点

同プランにおいて特徴的なのは、観光産業振興に向けた今後の取組の視点や、新たな目標値、平成29年度に実施する主な観光施策等が盛り込まれている点です。また、状況の変化に臨機応変に対応するため、毎年度、内容を更新することが予定されています。

具体的には、今後の取組の視点として、(1)観光の有力産業化(2)新たな観光資源の開発(3)魅力の発信と効果的な誘致活動(4)受入環境の充実(5)東京の様々な主体の連携強化の5項目が掲げられています。

観光実行プランでは、従来の旅行者数に加え、新たに外国人リピーター数や消費額などの質的な面に着目し、具体的な数値目標を設定しています。

●観光産業振興に向けた施策展開

そして、観光実行プランの目標達成に向け、以下の6つの戦略に基づく施策が展開されます。

①消費拡大に向けた観光経営

観光事業者の生産性を高めるマーケティング活動やICT導入を支援／観光に関するビッグデータを活用し、観光事業者へ提供／旅館ブランドの発信や旅館と地域との連携／人材をマネジメント層とサービス提供を行う層の両面から育成

②集客力が高く良質な観光資源の開発

水辺の活用、ライトアップによる演出、ナイトライフ観光の

充実／地域の観光資源の活用を複数年度に渡って継続的に支援／外国人の関心が高いアニメやマンガなどの観光資源の活用／多摩・島しょの自然や農林水産業、自然公園を活用した観光振興／島しょ地域を巡る婚活等の新たな観光ツアーや来島・消費を促す仕組みづくり

③観光プロモーションの新たな展開

新たなアイコンとキャッチフレーズによる海外への東京の魅力の発信／富裕な旅行者層の誘致に向けたプロモーションや条件整備／パリやNYのような国際観光都市との相互観光PR

④MICE(※1)誘致の新たな展開

MICE施設の機能強化に向けた設備導入を支援／都立施設などにおけるユニークベニュー(※2)の利用促進／多摩地域でのMICE開催に向けた地域の取組を支援／国際会議等の東京での新たな立ち上げの支援

⑤外国人旅行者の受入環境の向上

多摩地域での観光情報センター機能の整備／観光スポットや旅行者の関心に応じた情報提供が可能な観光アプリの開発／緊急時や災害時における外国人旅行者の安全・安心の確保／アクセシブル・ツーリズムの充実に向けてバリアフリー化等を推進／ハラルなど多様な文化や習慣への対応

⑥日本各地と連携した観光振興

東京と連携を図る対象エリアを拡大／東京とその周辺を巡る広域的な観光ルートの設定

こうした施策を通じ、観光都市としての東京のさらなる魅力向上が期待されます。なお、同プランについてのより詳しい情報は、東京都ホームページ(<http://www.metro.tokyo.jp/tosei/hodohappyo/press/2017/01/27/15.html>)からご覧いただけます。プラン内容についてのお問い合わせは、産業労働局観光部企画課(03-5320-4721)までお願いします。

(※1)企業等の会議(Meeting)、企業等の行う報奨・研修旅行(Incentive Travel)、国際機関・団体、学会等が行う国際会議(Convention)、展示会・見本市、イベント(Exhibition/Event)の頭文字をとった造語で、多くの集客交流が見込まれるビジネスイベントなどの総称。参加者が多くだけでなく、一般の観光旅行に比べ消費額が大きいことなどから、MICEの誘致に力を入れる国や地域が多い。(※2)ユニークベニュー：歴史的建造物、文化施設や公的空間等で、会議・レセプションを開催し、特別感や地域特性を演出できる会場のこと

東京今昔物語468

浅草橋に残る天文台跡

今年の春分の日は3月20日です。台東区浅草橋には、暦をつくるために設けられた天文台跡の案内板が残っています。この天文台は、暦に強い関心を持っていた徳川吉宗が延享元(1744)年、神田佐久間町に設置させたもので、天明2(1782)年に牛込薬店(新宿区袋町)へ移され、その後、浅草



橋でつくり直されたということです。浅草天文台では高橋至時(たかはしよとき)・間重富(はざましげとみ)の観測により、寛政の改暦が行われています。至時の弟子には日本地図作成で知られる伊能忠敬がおり、渋川春海から始まった天文方の知識や技術はその後の江戸を支えていきました。